

第4回 ふるさと高原山を愛する集い 実施報告書



開催日：平成28年10月30日(日)

開催場所：玉生運動広場

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

祝「山の日」制定 ふるさと高原山を愛する集い

～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

期日：平成28年10月30日（日）

場所：玉生運動広場（旧玉生中学校グラウンド）

主催：ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

共催：塩谷町

後援：一般財団法人全国山の日協議会、矢板市、日光市、那須塩原市

協賛：とちぎ音の会、ふんちく



しおやの高原山 10 景
「高原 4 連峰」(久保井久夫さん撮影)

山と川と海は、人が利用するにあたって適切な保全管理があってこそ、はじめて良好な環境が得られるといわれています。“高原山”は栃木県塩谷町の基本構想にシンボルとうたわれているように、住民にとって心の支えであるとともに、水やおいしい空気、大地の恵みなどを供給しています。私たちには“高原山”の素晴らしい自然を次世代に継承していく責務があります。

当会名誉顧問の船村徹先生は「山の日」の制定にご尽力され、今年から8月11日が国民の祝日「山の日」となりました。「山の日」の意義は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」とされています。本日ご参加いただいた皆様方とともに、ふるさと“高原山”への思いと「山の日」の意義を共有したいと存じます。



プログラム

11:00～ 開会、あいさつ	見形和久会長 全国山の日協議会、来賓代表
11:20～ スペシャルステージ	「山の日之歌」 歌手 走 裕介さん 「山が笑ってらよ」 「故郷の山が見える」熱唱 歌手 えひめ憲一さん 「故郷がいちばん」熱唱
講演	「木を使い続けるということ」 宮大工・当会顧問 小川三夫さん
～12:05 情報提供	冊子「山の日」とふるさとの山の紹介 市川貴大事務局長
12:05～ 点火！	バーベキュー開始、エコストーブによる釜飯の試食等
12:30～ お楽しみステージ	「きたかん音頭」 イシフロシアとそだんべくらぶさん 「下野不動太鼓」 下野不動太鼓保存会のみなさん 「井戸神獅子舞」 井戸神獅子舞会のみなさん
13:30～ クイズ大会	全員参加で高原山のクイズに挑戦しよう！
13:50～ 緑化推進	「緑豊かな郷土づくりをめざして」 マロニエメイツのみなさん
～14:00 閉会	谷畑方夫副会長 ※苗木(ミツバツツジ、ライラック)の配布 塩谷町緑化推進委員会

故郷の山が見える

木下 龍太郎 作詞
船村 徹 作曲 丸山 雅仁 編曲
鳥羽 一郎 唄

一 いちど東京へ 行くと言いながら
いつも口だけで ひとり野良仕事
老けたおふくろの やせたあの肩を
さすってあげたい
峠 越えれば 俺のふるさと
山が見えてくる

♪ ふるさとの山に向かいて 言うことなし
ふるさとの山は ありがたきかな(石川啄木詩集)

二 けんかしたけれど 何故か気があって
どこへ行くんだと 泣いてくれたやつ
月の縁側で 馬鹿を言いながら
ふたりで呑みたい
幼なじみと共に遊んだ
山が見えてくる

三 村を出るときは ひとり踏切で
汽車が消えるまで 背伸びしていた娘
町へ嫁に行き 母となったいま
しあわせだろうか
恋を失くした 遠いあの日の
山が見えてくる

参加者一人一人がボランティア！ 準備・片付け等ご協力をお願いします！

ふるさと高原山を愛する集い
～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会 市川 貴大

第4回ふるさと高原山を愛する集いが平成28年10月30日（日）に玉生運動広場にて開催されました。第1回目は平成25年5月26日に日々輝学園体験学習館（旧塩谷高等学校）体育館（650名参加）、第2回目は平成26年10月26日に尚仁沢は一とらんど（300名参加）、第3回目は平成27年10月25日に玉生運動広場（700名参加）にて開催しました。今回は第3回目にひきつづき玉生運動広場にて実施しましたので報告いたします。

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会による事前打ち合わせ

今年国民の祝日「山の日」がスタートする年であるので、ふるさと高原山を愛する集い以外に、ハイキングや写真展、冊子の作成等に取り組むことにしました。また、去年のバーベキューでは、当日準備と後片づけがかなり大変でしたので、改善を図ることにしました。

今年ふるさと高原山を愛する集いの開催日が10月30日（日）になり、町内でも2つほど別のイベントが開催され、昨年以上にバーベキューのお申し込みが増えなく、苦戦を強いられました。「5名も集められない」という声は結構お聞きしましたので、来年度は考慮したいと思います。また、「山の日」の8月11日はすでに新聞記者の方が長期休暇に入りやすいということで、情報提供を1週間程度前倒しするなど、工夫が必要なようです。会長をはじめ、実行委員さんのご協力により一般申込が89セットになりました。

表 ふるさと高原山を愛する集い実行委員会による事前準備

年月日	参加者数	場所	内容
2016年3月26日	18名	星ふる学校 「くまの木」	・第4回の実施を確認 ・バーベキューの実施 ・ハイキング、写真展の検討
2016年4月23日	6名	星ふる学校 「くまの木」	・集いの出演者の確認 ・冊子へのメッセージについて ・写真の募集について
2016年5月29日	9名	星ふる学校 「くまの木」	・集いの出演者の再検討 ・ハイキングの募集状況 ・写真の募集について
2016年6月26日	8名	星ふる学校 「くまの木」	・集いの具体的検討 ・冊子の制作状況 ・写真の募集状況について
2016年7月17日	10名	星ふる学校 「くまの木」	・緑の水の森林ファンドの公募決定 ・船村先生から走裕介さんの推薦があった ・ハイキング、冊子、写真展等の状況について
2016年9月17日	11名	星ふる学校 「くまの木」	・来賓、バーベキューセット、会場の確認 ・申し込みは35セット。昨年よりPRしているが少ない状況。 ・今後の展開について
2016年10月10日	10名	玉生 運動広場	・練習を行う(アルミホイルの活用) ・申し込みは60セット。最後の追い込み必要。(町内イベント重複) ・前日・当日の確認

土上平放牧場&高原山国有林見学ハイキング

今年から8月11日が国民の祝日「山の日」となったことから、今年はふるさと高原山を愛する集いのみならず、ハイキングや写真展、登山道のササ刈り等も実施しましたので、ご紹介します。

平成28年6月12日(日)、バリアフリー鉄道農園「風だより」から、栃木県土上平放牧場内の管理道を歩き、高原山国有林内の林道および守子神社周辺を経て、「風だより」まで一周歩くハイキングを実施し、33名が参加しました。栃木県土上平放牧場内では栃木県農政部の杉本宏之次長、高原山国有林内では塩那森林管理署の高木鉄哉署長、宇都宮大学名誉教授の谷本丈夫先生にご説明をいただき、土上平放牧場と高原山国有林について理解を深めることができました。



(土上平放牧場には入場許可、高原山国有林には入山許可をそれぞれいただいております)

写真展 高原山の四季&メッセージ

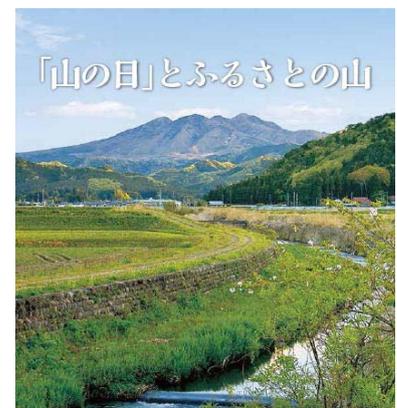
国民の祝日「山の日」の誕生を祝して、私たちの心の拠り所である高原山麓で写した素晴らしい写真やメッセージを尚仁沢は一とらんど2Fにて、8月10日(水)～9月3日(土)まで展示しました。写真サークルあそぼの皆様のご協力を得て、新作や下野新聞にて連載された「たかはらの四季」の写真も展示し、月日の流れを感じることもできました。



冊子『「山の日」とふるさとの山』を記念出版

国民の祝日「山の日」の誕生を祝して、これまでのふるさと高原山を愛する集い等の活動を中心に、一冊の本にまとめ記念出版しました。全国山の日協議会の谷垣禎一会長や作曲家の船村徹先生等からもメッセージを賜りました。国民の祝日「山の日」の誕生に至るまでの経緯についてもとりまとめました。

ふるさと高原山を愛する集い2016では、来賓およびバーベキュー申込者に冊子を配布し、冊子の完成をみんなで祝しました。



～ふるさとの山「高原山」にて
「山の日」を思う～

2016.8.11
ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

高原山登山道のササ刈り

8月21日(日)、10月13日(木)、11月6日(日)に高原山登山道のササ刈りを実施しました。8月21日は暑さ&ヤマビルの猛威に参りました。その点、10月13日

は青木修司さん、和気達郎宮司、倭文廣さんと筆者にて釈迦ヶ岳山頂付近までササ刈りを行いました。10月になるとヤマビルも動きが鈍くなるようで被害がなく、また涼しいのでそれほど疲れなく作業ができます。来年以降はこの時期に実施したいと思います。釈迦ヶ岳山頂付近のササが最も繁茂しています。西平岳付近はシカ害のようで結構ササが食べられていますので、手鎌での作業で十分でした。



イヌブナ自然林ハイキング

尚仁沢湧水の上流部に位置する国の天然記念物である「イヌブナ自然林」を観察するために、10月10日（祝・月）、バリアフリー鉄道農園「風だより」の先の林道駐車場を起点にハイキングを開催しました。今回は定員を上回る45名が参加してくださり、塩那森林管理署の高木鉄哉署長による国有林の話と宇都宮大学名誉教授の谷本丈夫先生によるブナ・イヌブナの話をいただきました。現在あまり散策路の状態が良くないので、来年はイヌブナ自然林～守子神社の旧散策路を整備したいと思います。



ふるさと高原山を愛する集い前日の準備

昨年の反省を踏まえ、10月29日は木炭・着火剤の仕分け、鉄板へアルミホイルを敷く、お茶及び配布物の準備、のぼりの準備を行いました。多くの実行委員が協力してくださったので、スムーズにできました。反省点として、机の配置やバーベキューコンロ、ステージの位置についてもあらかじめ決めておいた方が当日の準備がスムーズになることがわかりました。



ふるさと高原山を愛する集い当日の準備

8時集合ということで、バーベキューコンロの設置、会場のレイアウトを順次行いました。前日準備をしたため、スムーズに準備ができました。受付についても、昨年の大混乱はなく取組むことができました。

当日使う机の数が足りないことに気がつき、旧玉生中学校の校舎内にある備品を最大限活用して、



何とか乗り切りました。

受付については、配布物を前日準備し、あわせて申込名簿をアイウエオ順にしたので、こちらも滞りなく作業ができました。今年は紙皿と割り箸の配布を任意にしましたが、ほとんどの方が希望されました。今年は1セットの参加人数が昨年より増え、子どもたちの参加も結構みられました。全体で600名ほどの参加がありました。



開会あいさつ

今年の司会は塩谷町地域おこし協力隊の河内良介さんが行い、ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の水野雅章さんには司会補佐となっておられました。開会宣言とふるさと高原山を愛する集いの開催趣旨の説明を行いました。

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の見形和久会長から開会あいさつを行いました。ふるさと高原山を愛する集い実行委員会は2011年1月に、当会名誉顧問の船村徹先生から「山の日」の制定を呼びかけに呼応し、2013年から「ふるさと高原山を愛する集い」を開催し、今年で4年目になります。今年については「山の日」が国民の祝日となりました。船村徹先生にとって「山の日」と文化勲章受章となった今年はお祝いの年になったと思います。『船村徹先生は「山の日」は高原山からはじまったとおっしゃっておられ、豊かな自然を次の世代に引き継いでいけるように、参加者皆様のご支援・ご指導をお願いします』と述べられました。



来賓代表として、地元衆議院議員の福田昭夫先生からご祝辞をいただきました。福田先生からは「国民の祝日「山の日」が誕生し、船村徹先生は文化勲章受章も決定されました。このような中、高原山のふもとに最終処分場をつくっていいのでしょうか？福田富一知事に中止をいえるのは船村徹先生しかいないと思います。来年は栃木県で「山の日」の全国大会もあります。船村徹先生によりしく伝えてほしいです。今日は事務所職員と一緒にバーベキューを楽しみたい」と述べられました。



また、日光市の斎藤文夫市長から祝辞を賜りましたので、司会により読上げられました。



谷垣禎一会長からのメッセージ

今年是全国山の日協議会からご後援を賜り、会場にはお父様が塩谷町船生地区ご出身の手塚友恵事務局長にお越しいただき、全国山の日協議会の谷垣禎一会長のメッセージについて『今年8月11日に、第1回「山の日」記念全国大会を皇太子殿下の御臨席の下、長野県松本市上高地にて盛大に開催しました。来年の第2回「山の日」記念全国大会は栃木県那須町にて開催することになりました。これからも地域社会の皆様とともに、「山の日」の意義のみならず、逞しい子供たちの育成、地域社会の活性化、森林・水資源、文化・観光、登山等多くの課題解決に向けてのご意見をいただき、情報共有の上、一緒に「山の日」の活動を盛り上げていただきたいと思います』と代読いただきました。



船村徹先生からのメッセージ

当集い実行委員会の名誉顧問で、作曲家、文化功労者、名誉県民である船村徹先生からのメッセージを歌手の走裕介さんにご披露いただきました。『船村先生は今年5月心臓の手術を行い、現在リハビリに専念しており、船村徹先生からこの集いに行って来いといわれて参りました。栃木県内で10年間船村徹先生の内弟子ということで住んでいましたので、栃木県は第2のふるさとと思っております。船村徹先生は常日頃「セシウムはいらない」とおっしゃられており、皆様のメッセージを持ち帰って船村徹先生に伝えたい』とお話いただきました。



走裕介さんオンステージ

全国山の日協議会では国民の祝日「山の日」の誕生を記念して、船村徹先生の総合プロデュースによる山の日制定記念曲を4曲発表されました。そのうちの一曲「山が笑ってら」（作曲は船村徹先生の長男蔦将包さん）を走裕介さんが歌われていることから、「山が笑ってら」をご披露いただきました。また、「山が笑ってら」のCDに我らのテーマソング「故郷の山が見える」も収録されておりますので、併せて「故郷の山が見える」もご披露いただきました。



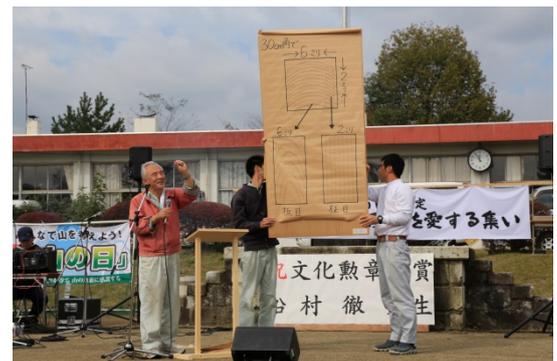
えひめ憲一さんオンステージ

毎年ふるさと高原山を愛する集いに駆け付けてくださるえひめ憲一さん。実は毎年ご協力いただいている音響（とちぎ音の会）はえひめ憲一さんのお口添えで協力いただいております。えひめ憲一さんからは、「山はみなさんの共有財産であり、楽しみ、喜び、豊かさも平等に与えてくれる一方、災害等痛み、苦しみも与えてくれるものです。本当の教育者は山のような平等である必要があるのではないのでしょうか。海外に住む日本人も日本の山をシンボルとしており、私も名のある山になっていきたい」と抱負を述べられ、「故郷がいちばん（作詞 さくらちさと、作曲 船村徹）」を熱唱されました。



小川三夫さんによる講演「木を使い続けるということ」

当会顧問、宮大工、「鶺鴒工舎」創設者で故西岡常一棟梁の唯一の内弟子である小川三夫さんに、「山の神の日は12月12日（地方によりいろいろある）といわれ、女神が山の木を数える日で、人が入ると木になってしまうので、山に入らないことにしています。木を切る時は塩やお神酒をささげ、東西南北拜んでから、伐採した木に苗木を植えて、お神酒をいただきます。木を伐採する時期は木が眠る時≒10～12月のちょうど今頃で、竹の節が水平に止まったり、虫が入らなくなったりします。木を乾燥させる方法は、天然乾燥、人工乾燥、水中乾燥があります。水中乾燥は、5年くらいすると乾燥し、さわると木の肌があたたかいものです。木の比重は約1.56ですが、キリでは空気が入っているので軽い木となります。木の収縮については、写真のように内部の圧縮と外側の引張があり、よく背割りをして割れないようにします。また、板目とまさ目があり、それぞれ伸縮が6mm、2mmであり、板目は酒樽等、まさ目はおけ等に使われます。



法隆寺での口伝のなかに、伽藍造営の用材は「木を買わずに山を買え」とあるように、木の材質はその土地の土質によって決まります。日本書紀では素戔嗚尊（スサノオノミコト）が島国だから船が必要とし、スギ、ヒノキ、マキ、クスノキなどを誕生させました。ヒノキは宮殿、スギ、クスノキは船、マキは棺桶に使うようにいられています。特にヒノキは200年までは強度が強くなっていき、1,000年から弱くなってきます。法隆寺ではヒノキが1,300年以上も支えています。ヒノキでも木曽のヒノキは表面に油がでてこないのが仏様に使われています。塩谷のヒノキは油がでてくるので、磨くとつやが出てきます。

木は循環する材料です。60年家で使えば、二酸化炭素の増減はありません。年輪経営の塩谷町であってほしいと思います」とご講演頂きました。

情報提供「冊子「山の日」とふるさと山」の紹介

当会の市川貴大事務局長から、『見形会長からお話があったように、我々の活動は2011年1月の船村徹先生から「山の日」制定のお話を伺い、5年間「山の日」の制定に向けた諸活動を実施してきましたので、このたび一冊の本にまとめました。是非ご覧いただければと思います』と会場に呼びかけました。



バーベキュースタート

今回のお肉は最初からセットにしてもらったので、配布もスムーズに行われました。今回、木炭の着火は皆様方をお願いしまして、着火不良の方はもちろんいらっしゃいましたが、呼ばれて対応するなどして、概ねスムーズに焼き始められておられました。今回はホルモンの代わりに鳥の山賊焼きとしましたが、「とてもやわらかくてジューシだった」と好評でした。だいわさんによるいも汁は長蛇の列！スタッフの分がなくなってしまうほどの大盛況でした。



くまの木里山応援団による「エコストーブ」による枝を使つての「羽釜ごはん」の試食会も行われました。新米は漆原敬さんご提供で、今年のものすごく好評で、気がついたらあっという間にすべてなくなっておりました！「やっぱり釜で炊いたご飯はうんまいねえ〜」とうれしいお言葉をいただきました。ちなみに、今年もアンケートの回収がほとんどできませんでした。おそらくバーベキューにすると、アンケートに回答する意欲がなくなってしまうようです・・・。



お楽しみステージ

イシワロシアとそだんべくらぶさんの登場です。イシワロシアさんは旧玉生中学校の卒業生で、毎年校歌を歌っていただいております。「きたかん音頭」では「だがね（群馬県）、そだんべ（栃木県）、そうだっぺ（茨城県）」の掛け声で、きたかんガールズとともに盛り上がりました。また、「僕は特急の機関士で」と「いい湯だな」の歌をご披露いただきました。

ここで、矢板市の斎藤淳一郎市長がご多忙の中、会場に駆けつけてくださり、「高原山は塩谷町、矢板市を結びつけるシンボルです。森林資源等を活用し観光等の地域活性化を共にやっていきましょう。高原山麓の件についてはともにがんばっていききたい」と力強いごあいさつをいただきました。

つづいて、国民文化祭等にご出演されている下野不動太鼓保存会の皆さまによる、男体山をモチーフにした「男体嵐」、「電光石火」、「上弦の月」、「荒磯」をご披露いただきました。「和太鼓は日本人の心にしみわたる音色で、今後とも親しんでほしい」というメッセージもありました。

締めで寺小路獅子舞保存会の皆さまによる「前庭の舞」と「鬼退治の舞」が披露されました。前庭の舞は三匹の獅子が雄大に踊る舞で、鬼退治の舞は当時大盗賊がいた頃、鬼に仕立てて、三匹の獅子が鬼退治するという舞です。来場者の子どもたちが近くに来てじっと見ていたのが印象的でした。いつまでも地域に受け継がれていってほしいと思います。



全員参加の高原山クイズ大会

ふるさと高原山を愛する集い実行委員の水野雅章さんのリードで、全員参加の高原山クイズ大会を開催しました。今年は来場者のほとんどの方が参加され、結構正解される方が多く、問12でほとんどの方が間違えられ、3名の方しか正解になりませんでした。そこで残りの17名については、問13を実施した後、じゃんけんで勝った方に、見形和久会長より、漆原敬さんご提供の旬の野菜セットを贈呈しました。今回は子供たちにぶんちくさんご提供のぬいぐるみを特別にプレゼントしました。予想以上に子供たちが喜んでおりました。

クイズを通じて、高原山のことをもっと知ってほしいと思います。

(問1) 高原山には、日光国立公園のエリアが存在しない

「×」エリア内

(問2) 高原山の最高峰は前黒山である。

「×」釈迦ヶ岳 (1,795m)

(問3) 釈迦ヶ岳の標高は、約 1,900m である。

「×」1,800m (1,795m)

(問4) 高原山は「活火山」である。

「○」活火山 (他に日光白根山、那須岳)

(問5) 高原山には、「前山」という山はない

「×」前山 (1,435m)

(問6) 釈迦ヶ岳の山頂は、塩谷町、日光市で那須塩原市のエリアはない

「○」

(問7) 尚仁沢の上流に、権現沢という沢がある。

「○」

(問8) 国の天然記念物であるイヌブナ自然林は、高原山には存在しない

「×」存在する

(問9) 名水百選の尚仁沢の上流の川は黒沢である。

「×」権現沢

(問10) 和歌「水を越え 岩に至ると 胸をどる 高原山を 得しようにわれ」と詠んだ歌人は「与謝野鉄幹」である。

「×」与謝野晶子

(問11) 「与謝野晶子」が生まれたのは、明治時代である。

「○」明治時代

(問12) 地元の伝説「釈迦ヶ岳の神のしくじり」で、山の神が夜な夜な通った美人が住んでいた塩谷町の地名は、「寺島」である。

「×」田所

(問13) 尚仁沢湧水が名水百選に認定されたのは昭和 59 年のことであった。

「×」昭和 60 年



緑化推進「緑豊かな郷土づくりをめざして」

とちぎ環境・みどり推進機構の佐藤崇理事長とマロニエメイツの佐藤香月さんに、栃木県の福田富一知事ととちぎ環境・みどり推進機構の五月女裕久会長から『平成28年度緑化運動テーマは、「つなげよう ぼくらのみらいに あふれるみどり」と定めて、山、里、まちの緑化の一層の推進を図り、やすらぎとうるおいのある緑豊かな郷土になるようにしましょう』という県土緑化のメッセージをいただき、ミツバツツジとライラックの苗木が来場者に配布されました。例年苗木はマロニエメイツさんに手渡しでお願いしていたのですが、今年は予想以上に希望者が多く、受付のテーブルが押されるくらいで、あっという間に配布が終了しました。緑化推進する者にとって、うれしい限りです。



閉会あいさつ

閉会あいさつとして、ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の谷畑方夫副会長から『「ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう」というスローガンの下、第4回ふるさと高原山を愛する集いが開催できたことへの感謝の意と、実行委員会や塩谷町職員がボランティアにて運営してきたことへの労いの言葉、国民の祝日「山の日」がスタートし、船村徹先生が文化勲章の受章が決定するという記念すべき年になったこと、特に「寺小路獅子舞」は地元においても獅子舞を見る機会がなくなっており、町に残る伝統を残していってほしい。最後に、高原山を中心に新しいまちづくりを出発していってほしい』と述べられました。



皆様の御協力を賜り、第4回ふるさと高原山を愛する集いが無事に開催できました。冒頭で申し上げたとおり、企画段階にて二転三転したなかで、何よりもボランティアにて参加して下さった実行委員会メンバーと塩谷町役場の黒田明典さんの御協力なしでは開催することは不可能な状況でした。また、とちぎ音の会には特段の協力を賜りました。

今回は昨年に反省を踏まえて実施したので、だいぶ改善できたのではと思います。ただ、まだまだ改善できる点がありますので、来年はより良い会になるよう準備をしっかりとしていきたいと思っています。特に、子供たちの参加がみられ、来年はもう少し老若男女が楽しめるよう工夫していきたいと思っています。毎回来賓の皆さまにはご迷惑をおかけいたしております。実行委員のフォローも限度がありますので、ご容赦いただければ幸いです。今後とも皆様のご協力とご参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(備考)

- ふるさと高原山を愛する集い実行委員参加者
見形和久会長、谷畑方夫副会長、漆原敬、水野雅章、和気芳道、小野崎保男、手塚一信、宇賀神一雄、青木修司、和気仲男、斎藤カツ、小野崎千鶴子、倭文廣、斎藤民枝、市川貴大（事務局長）、黒田明典（塩谷町役場山の日担当）、河内良介（塩谷町地域おこし協力隊）
- 協力団体
塩谷町役場、高原山の自然を守る会、船村徹ふるさと会、花の会、塩谷町写真サークル「あそぼ」、高原山神社、くまの木里山応援団、とちぎ農林倶楽部
- ご協賛（ご協賛賜り厚く御礼申し上げます）
とちぎ音の会、ぶんちく、漆原敬
- 平成28年度「緑と水の森林ファンド」地域づくり団体活動支援事業にて一部助成を受けて開催されました



(写真は和気仲男さん、青木修司さん、市川貴大撮影)
(この報告については雑誌しもつけの心にて連載予定です)